

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 神戸市

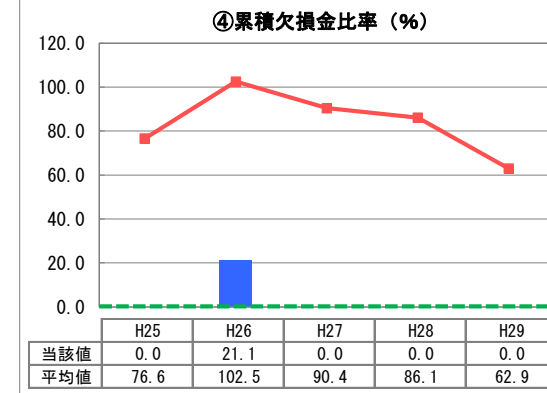
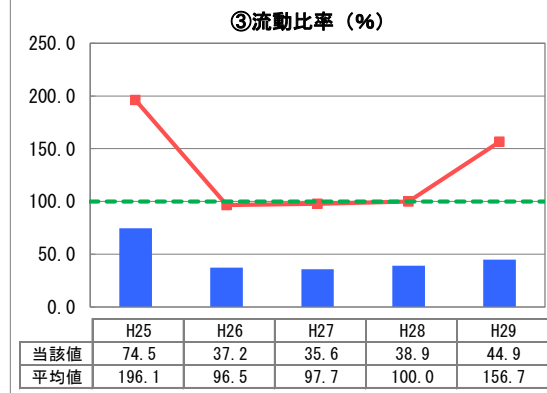
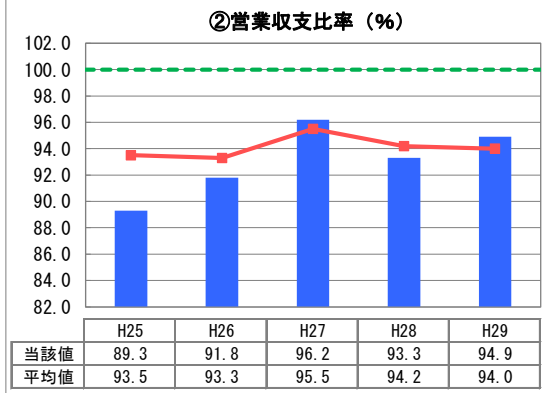
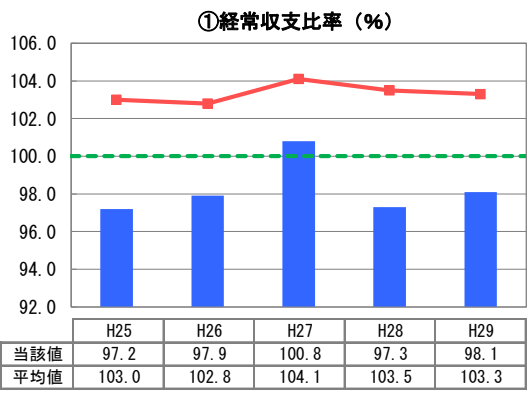
業務名	業種名	事業名	管理者の情報
法適用	交通事業	自動車運送事業	自治体職員
資金不足比率 (%)	営業路線 (km)	年間走行キロ (千km)	在籍車両数 (両)
16.8	369.6	17,274	515
職員数 (人)	管理の委託割合 (%)	民間事業者の有無	地域公共交通網形成計画策定の有無
381	47.0	有	有

	H25	H26	H27	H28	H29
年間輸送人員 (千人)	69,108	69,089	69,380	68,348	68,168
他会計負担額 (千円)	1,001,768	697,425	558,720	494,450	401,363

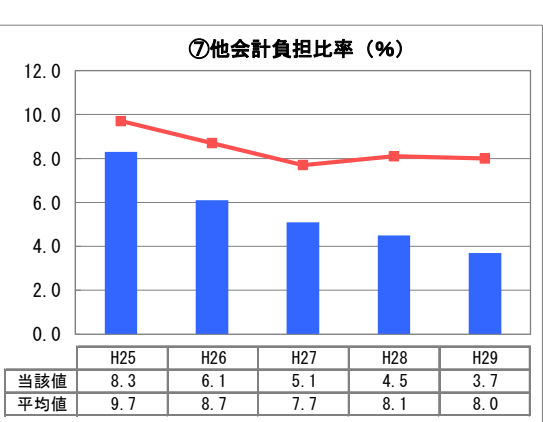
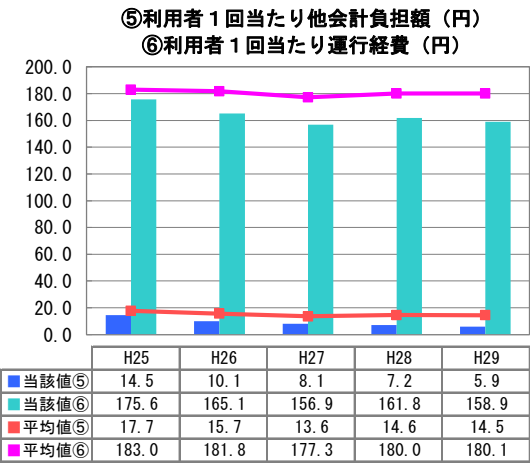
※民間事業者の有無とは、行政区域内で民間バス事業者が運行しているかどうかを指す。

1. 経営の健全性

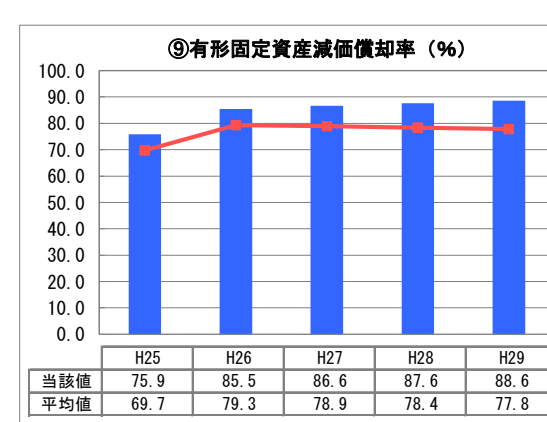
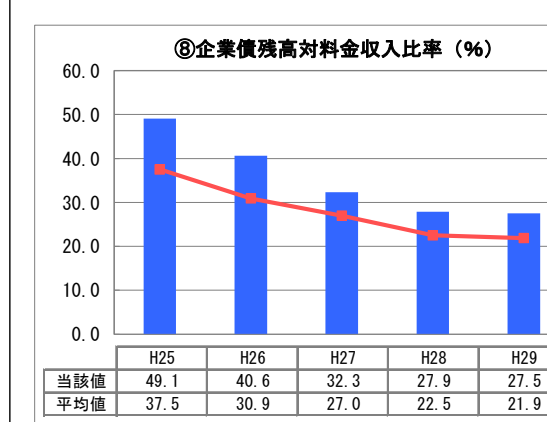
○事業の状況



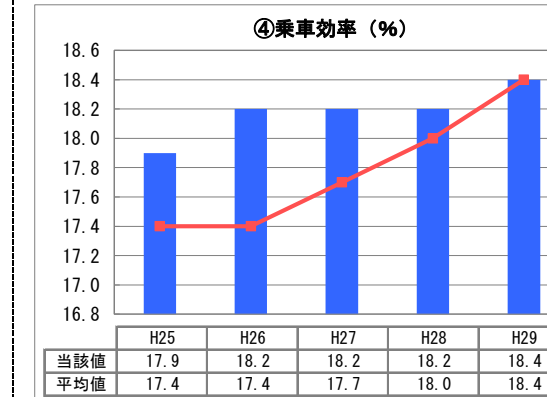
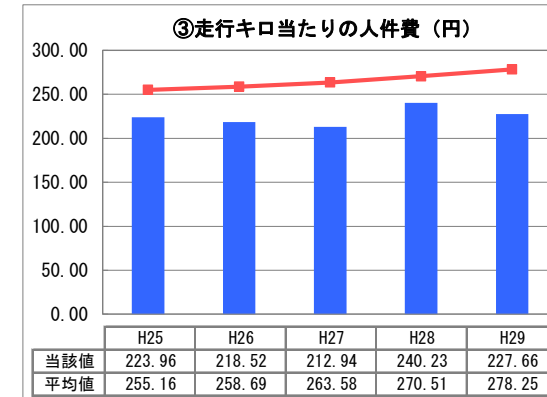
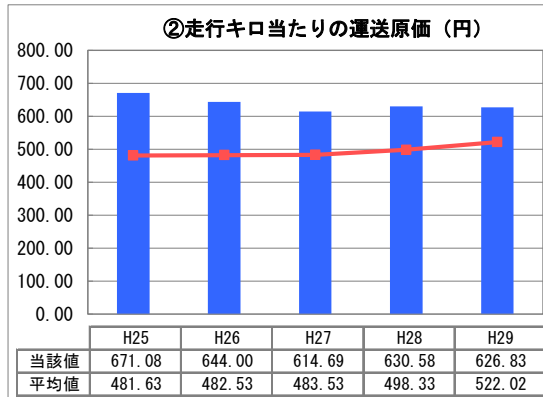
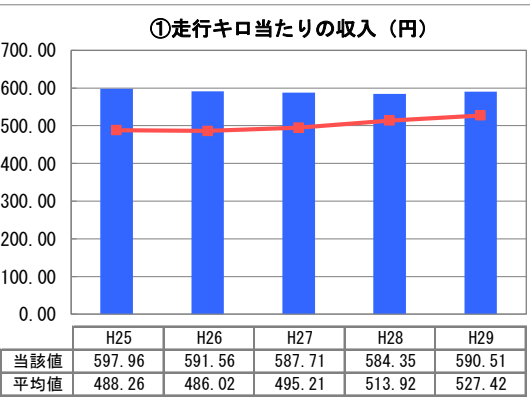
○独立採算の状況



○資産及び負債の状況



2. 経営の効率性



※民間事業者平均値は当該団体が所属する標準原価ブロックの民間平均値

分析欄

1. 経営の健全性について

事業の状況については、④累積欠損比率は0%であるが、過去に発行した企業債の償還のための資金を確保できていないことから、③流動比率は目標値及び公営企業平均値をいずれも下回っており、短期的な債務の支払能力が低いと考えられる。また、人口減少や少子高齢化等の影響で乗車人員が想定以上に大きく減少していることにより、①経常収支比率と②営業収支比率は100%を下回っている状態である。

次に独立採算の状況については、⑤利用者1回当たり他会計負担額、⑥利用者1回当たり運行経費および⑦他会計負担比率はいずれも減少傾向にあり、かつ他公営企業平均値を下回っていることから、比較的独立採算性は高いと考える。

最後に資産および負債の状況については、平成25年度よりバス車両の使用年数を12年から18年に延長した影響もあり、⑧企業債残高対料金収入比率は減少傾向にあるが、一方で⑨有形固定資産減価償却率は増加傾向にあり、今後のバス営業所の大規模改修やバス車両の更新に備える必要がある。

2. 経営の効率性について

①走行キロあたり収入は、民間平均よりも多く、乗車人員は減少しているものの前年度より増加している。

③走行キロあたり人件費は、営業所の管理委託を進めていることにより民間事業者平均よりも低くなっているが、②走行キロあたり運送原価は、民間事業者平均より高い水準にあり、人件費及び管理委託費を含む運行経費が民間事業者よりも高くなっている。

④乗車効率は、公営企業平均と同等程度ではあるが、ニーズに合わせた路線・ダイヤの編成を行うことにより上昇してきている。

全体総括

全体としては、各事業者平均値と比較すると、良好な指標もあるが、流動比率が低いことに加えて、平成29年度も引き続き経常収支が赤字となっており、今後も設備更新による減価償却費・企業債残高の増加が見込まれることから、厳しい経営状況となっている。

自動車事業における経営改善策の1つとして、8営業所中5営業所の管理委託を行っており、委託率は車両数で7割と公営事業者の中でも高いが、キロ当たり運送原価は依然として民間事業者平均よりも高くなっている。さらなる路線再編による運行の効率化と人件費の低減に努め、経営の効率化を図っていく。

平成30年度には抜本的な収支構造の改善を図るため、給与体系の見直しを行うが、さらなる人件費の抑制や路線再編による運行の効率化に努めるなど経営改善に取り組んでいくとともに、平成31年度からは経営戦略の具体的な検討を行っていくこととしている。